

ママチャリを産んだ日本からの提案

【サイクリングの自由法】と【THT ジャパン】

サイクリストライセンスとツーリズムメンテナンス

鉄砲鍛冶をルーツとする日本の自転車文化。複雑な道路事情や発達した鉄道網に対応した“ママチャリ”や“輸行”を産み出した世界に誇れる文化だと考えます。

しかし自転車市民権となると話は別です！

放置自転車や自転車暴族などネガティブなイメージが先行し、もはや戦後では無いと言われた昭和30年代前半の第一次サイクリングブームから棚上げされているマナーやインフラ等は、カビた餅と化しています。

その自転車走行環境整備を棚から下ろし、カビを払い、新たな餅(自転車活用推進法)と並べたいと思います。

日本の実情は、『自転車市民権という山を前にして、登頂ルートを探るために麓をウロウロしているイメージ』とは、自転車関連団体の良心だった人の言葉です。

日本の実情に合った自転車遊びを模索する実証実験企画を2005年より行っている「自転車遊び総合研究会／転遊研」では、三種のツーリングコンペティション「ブルベ」「MTB ラリーレイド」「自転車さんぽ」で、「街道」「山道」「町の道」を網羅し、サイクリストライセンスやツーリズムメンテナンス、そして地域貢献型マルチサイクリングクラブという言葉に辿り着きましたが、サイクリングの法的根拠が壁となってその先に進めない状況です。

その壁を越えられず、麓をウロウロしているイメージが、日本の実情です！

つまり、新たな餅をついても、再びカビてしまう可能性が大だということです。

その壁を判り易く示した【自転車ソフト6分割チャート】が下記になります。

“サイクリングとは、レースを含むスポーツサイクリング全般”とは、国際自転車競技連盟／UCI のルールブックにある定義です。そのため、主にサイクルツーリングを指す日本の使い方は、和製英語とも言われています。その認識の違いもあり、日本の実情は、ソロ活動とレース活動は、法的にも保証されているものの、その間に存在するグループサイクリングは曖昧な状態となっています。

ソロ < クラブ ≤ ガイド ≤ コンペ ≤ イベント < レース

[セミナー+ツーリング] ← 【自転車ソフト6分割チャート】 → [ツーリング+レース]

転遊研では、グラデーション的な本来の考え方を一時封印し、曖昧な日本の実情に超党派で向き合うために、「セミナー+ツーリング」で初級ライセンスを、「レース+ツーリング」で上級ライセンスを語りたいと考えています。

壁とは、それぞれのカテゴリーでそれなりの活動を行っているものの、情報交換や人材交流などの連携が取れていない現状があるということで、どちらかと言うと溝かも知れません。。以下がその類例になります。

◇ソロ活動……個人も集まれば自転車暴走族！？

◆クラブ活動……JCA に代表されるように新しい分野に手を出せず自然消滅を待つのみ！？

◆ガイドツーリング……日本ではワイナリーツアーのような個人ガイドの企画が認められていない！？

◆ツーリングコンペティション……「ブルベ」「MTBラリーレイド」とも日常のセキュリティ外のためアンダーグラウンドに！？

◆イベントサイクリング……交通規制が前提なのに「一般のサイクリング大会」という矛盾！？

◇レース活動……どこで練習するの???

転遊研の「サイクリストライセンス&ツーリズムメンテナンス」をこれらにあてはめるなら、ソロ活動とツーリング、ツーリングとレースという溝が埋まり、クラブ活動の一環としてツーリングコンペティションを仕掛けることが可能になり、ガイドツーリングの根付いている観光エリアのPRとしてイベントサイクリングを行う必然性が出て来ます。

実証実験企画を通じてその考えに至った転遊研ですが、シモノバイカーズ、ツールド下関、サイクルエイドジャパン、そして行政の企画やショップレベルの企画等々、主催者の大小や、内容の硬軟を問わず、また車種不問で係わったからこそその到達点と、関係各位に感謝しています。

しかし、体質改善を訴えつつも、対症療法的にしか進まない状況は、あたかも身内に敵がいるようなベクトルの不揃いな状況とも言えます。

それが、「サイクルエイドジャパン+サイクル県やまぐちProject+ブルベ100」と言う、ステージが1段階上がった企画になることで、自転車活用推進法との接点が現れました。

それを遂行するために、山口県方式を考えるか、それとも日本の実情を変えることを考えるか、その選択を考えた場合、今後の展開を加味するなら、後者を選ぶことが得策と思います。

そこで、自転車活用推進議員連名にアプローチしたところ、ある程度の理解を示して頂き、それならと、更なる想いを伝えたいと考え、【サイクリングの自由法】の提案と、そのベースとなる【地域貢献型マルチサイクリングクラブ】の提案を合わせて行いたいと思い、それを推進するために「転遊研」を【THT ジャパン】に移行したいと思います。

.....

地域貢献型マルチサイクリングクラブ ≧ THTジャパン

地域貢献型マルチサイクリングクラブは、自転車ソフト6分割チャートを網羅する活動として、底辺の拡大、レース活動のサポートを行ないつつ、自転車市民権の獲得・維持を目的とする。

一方、THTジャパンは、三種のツーリングコンペティションを軸に、自転車ソフトの充実と、人材の発掘・育成を、在野で行うものです。

.....

サイクリングの自由法

- 1)目的:この法律はサイクリングの自由を保証するものである。
- 2)サイクリングの定義:サイクリングとは、レースを含むスポーツサイクリング全般を指し、また日常利用や競技の練習及び専用施設での活動も含むものとします。
- 3)楽しむ場所・インフラ:*****。
- 4)楽しみ方・ソフト:*****。
- 5)資格・ハート:*****。
- 6)機材・ハード:*****。
- 7)自転車市民権(サイクリストライセンスとツーリズムメンテナンスとザッピングと地域貢献型マルチサイクリングクラブ):*****。
- 8)周辺環境・補足・追記・その他(利用環境整備、旅人法、休日法、***、目的外使用の事前告知、日常のセキュリティ、****、*****):*****。